

2025年11月10日

ユーグレナ、PETRONAS、Enilive の3社、マレーシアバイオ燃料プラントの鍼入れ式を実施
- 2028年後半の稼働開始を目指し、本格的な建設工事が始動 -

株式会社ユーグレナ
Petroliam Nasional Berhad
Enilive S.p.A.

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充、以下「ユーグレナ社」）とマレーシアの Petroliam Nasional Berhad（以下「PETRONAS 社」）、イタリアの Enilive S.p.A. (Eni S.p.A. の完全子会社、以下「Enilive 社」) の3社は、2025年11月8日、ジョホール州ペングラーンにてバイオ燃料製造プラント（以下「本プラント」）の建設に向けた鍼入れ式を執り行つたことを報告いたします。2028年下半期迄の稼働開始に向けた工程は順調に進捗しており、今後、本プラントの建設工事が本格化してまいります。

鍼入れ式には、ジョホール州 投資・貿易・消費者問題・人材委員会委員長の Lee Ting Han 議員、Permodalan Darul Ta'zim 社 社長・CEO の Dato' Ramlee A Rahman 氏、ジョホール州議会の Fauziah Misri 議員、在マレーシア日本国大使館 公使 二瓶大輔氏らが出席し、本プロジェクトの始動を祝うとともに、地域と国際社会における持続可能なエネルギーへの貢献に期待が寄せられました。



本プラントは、マレーシア・ジョホール州の Pengerang Integrated Complex (PIC) 内に位置しており、主要な国際海運ルートへのアクセスを活かして、アジア地域を中心とした市場に対してバイオ燃料の供給能力を高め、効率的なサービス提供を可能にします。年間最大約 65 万トンの原料処理能力で SAF (持続可能な航空燃料)、HVO (次世代バイオディーゼル燃料)、バイオナフサを製造する予定で、原料には使用済み食用油や動物性油脂、植物油の加工過程で生じる残渣などの廃棄物が含まれます。これにより、廃棄物を有効活用しながら、環境負荷の少ないバイオ燃料を安定的に供給する体制が整い、より多くの人々にとって利用しやすい持続可能なエネルギーの選択肢を広げることが可能となります。

ユーグレナ社

代表取締役社長 出雲 充コメント：

PETRONAS 社および Enilive 社と共に鍵入れ式を迎え、いよいよ本格的な建設工事が始まることに、胸が高鳴る思いです。このプロジェクトがスタートして以来、日々急速に変化するエネルギー環境に対応すべく進化を続けてきました。そして今、2028 年の稼働開始に向けて、次のステージへと歩みを進めます。本プラントはグローバルな挑戦であり、ASEAN 地域をはじめとする世界の持続可能な未来に大いに貢献するものです。クリーンなエネルギーの供給能力を高めるとともに、微細藻類の研究開発にも引き続き力を注ぎ、藻油の商業化に向けた挑戦を続けてまいります。このプロジェクトに関わるすべてのパートナー、そして支えてくださったステークホルダーの皆様に心より感謝申し上げます。

PETRONAS 社

下流部門担当エグゼクティブ・バイスプレジデント兼 CEO Datuk Sazali Hamzah コメント：

Enilive 社、およびユーグレナ社とのパートナーシップによって実現した本プラントは、地域における脱炭素化の推進とエネルギー転換の加速に向けた、関係者全体の協働による取組みを象徴するものです。我々のパートナーシップの相乗効果と強みを活かし、この新たなプラントは、PETRONAS 社のエネルギー転換戦略における重要な施策の一つとして、バイオ基軸のバリューチェーンを包括的に構築し、よりクリーンなエネルギーソリューションの選択肢を拡充することを目指しています。これは、PETRONAS 社が今後 10 年で「統合型エネルギーリーダー」としての地位を確立し、世界のエネルギー需要に対して、安全・確実・持続可能な形で応えていくというビジョンと完全に一致しています。

Enilive 社

CEO（最高執行責任者） Stefano Ballista コメント：

本プラントは、PETRONAS 社およびユーグレナ社との戦略的パートナーシップによって実現したものであり、輸送分野の脱炭素化を加速させるとともに、Enilive 社が持続可能な製品に取り組む姿勢を改めて示すものです。当社は、すでにイタリアと米国でバイオリファイナリーを稼働させており、現在はイタリアおよび韓国でも新たな施設を建設中です。今回のペングランでの新プラントは、より持続可能なモビリティへの高まるニーズにお応えするため、我々グループが、2030 年までに年間 500 万トン以上の生産能力と 200 万トン以上の SAF の生産を目指すうえで、更なる重要なステップとなります。

<株式会社ユーグレナ>

ユーグレナ社は、2005年に世界で初めて微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ）の食用屋外大量培養技術の確立に成功したことを契機に、バイオテクノロジーを活用して持続可能な社会の実現を目指す企業で現在は東京証券取引所のプライム市場に上場しています。「Sustainability First（サステナビリティ・ファースト）」をフィロソフィーに掲げ、社会課題に対する持続可能な解決策を提案する研究開発を活かし、機能性食品や化粧品を販売するヘルスケア事業をはじめ、藻類由来の原油（藻油）の開発とバイオ燃料の製造を行うエネルギー事業、さらに肥料・飼料を通じた一次産業のサポート、ソーシャルビジネスなどの分野にも事業を展開。2014年からは、バングラデシュの子どもたちの栄養問題解決を目指し、59種類の栄養を含むユーグレナクッキーを毎日約1万食届ける「ユーグレナ GENKI プログラム」を実施しています。

<Petroliam Nasional Berhad>

PETRONAS社は、持続可能な未来のために人々の生活を豊かにすることを目的とした、100カ国以上に拠点を置く大規模なグローバル・エネルギー・グループです。従来型およびクリーンエネルギーソリューションまで、多様なエネルギー課題解決のためのポートフォリオを拡大しています。事業全体で持続可能なエネルギー供給を実施しながら、低炭素社会への公正かつ公平な移行を目指しています。

<Enilive S.p.A>

モビリティ製品とサービスに特化した Eni の完全子会社である Enilive 社は、バイオリファイニング、バイオメタンの製造、スマートモビリティソリューションの提供、そしてヨーロッパに5,000以上あるサービスステーションを通じた、すべてのモビリティに向けたエネルギー供給に特化した企業です。Enilive 社は、来るエネルギー転換に向け段階的に脱炭素化を達成するためのサービスと製品を提供することで、2050年カーボンニュートラル達成という Eni 社の目標に貢献しています。ベニスとジェラ（イタリア）のバイオ燃料製造プラント、米国ルイジアナ州のセント・バーナード・リニューアブルズ LLC（PBF エナジーとの 50%合弁事業）、イタリア国内のバイオガス施設（バイオメタン製造設備へと移行中）、さらにイタリア、マレーシア、韓国で新たにバイオリファイナリーを建設するなど、世界中で幅広いサービスを提供しています。Enilive 社は、2030年までに年間 500 万トン以上のバイオリファイニング能力の確保を計画しており、SAF の製造能力についても年間最大 200 万トンまで拡大する方針です。